

社会－7（第5学年） 社会的事象と関係付けて、自分の考えを深める事例

【学習活動の概要】

1 単元名 気候条件から見て特色ある地域の人々の生活

2 単元の目標

気候条件から見て特色のある地域の人々の様子を地図や各種資料を活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。

3 評価規準

【社会的事象への関心・意欲・態度】

新潟県十日町市、沖縄県沖縄島の様子やそこに暮らす人々の生活の様子に関心をもち、意欲的に調べている。

【社会的な思考・判断・表現】

新潟県十日町市と沖縄県沖縄島の様子やそこに暮らす人々の生活の様子から、学習問題を見いだし、その様子を相互に比較したり、生活と気候条件、人々の工夫や努力と生活の維持向上とをそれぞれ関連付けたりして考え適切に表現している。

【観察・資料活用の技能】

新潟県十日町市と沖縄県沖縄島について、地図、統計資料、ビデオ、文章資料などの各種資料を活用して、必要な情報を集め、読み取ったり整理してまとめたりしている。

【社会的事象についての知識・理解】

国内には気候条件から見て特色のある地域があり、そこに住む人々は、その地域の自然環境に適応した生活をしていることを理解している。

4 教材

本校は、夏は温暖で冬は寒く雨が少ない地域にある。そこで気候条件に関しては、本地域との比較が可能な「寒冷多雪な新潟県十日町市」と「高温多湿で台風の通り道に当たる沖縄県沖縄島」が事例地として考えられたが、いずれかに限定せず、両方の地域を取り上げ学習することにした。二つの事例地をセットで扱い、その特色を比較することで考える力の育成を図ろうという理由による。また、複数の事例から得られる「様々な気候や環境の中で、人々は自然環境に適応しながら生活している」という概念的知識がより確かなものになるだろうと考えたことによる。

5 主な学習活動

(1) 単元の指導計画（全8時間）

学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
○気候の違いを見付け、学習問題（「もしも、引っ越すとしたら、どちらの地域がよいか？二つの地域の生活の様子を調べて考えよう！」）をつくる。(1) ○新潟県十日町市について調べ、イメージマップにまとめる。(3) ○沖縄県沖縄島について調べ、イメージマップ図にまとめる。(3) ○二つの地域を比べ、学習問題に対する自分の意思を決定し、論述する。(1) <b>本時</b>	・ 「つまり」「たとえば」などの言葉を使って帰納的な思考や演繹的な思考を促すようにする。 ・ 問いや考えを調べた事実と関係付けながら表現することで、自分なりに調べたことの意味を解釈したり、再構成して自分の考えに沿ってまとめたりできるようにする。

(2) 本時の学習（8/8）

①目標 各自が作成したイメージマップを活用しながら話し合い、新潟県十日町市と沖縄県沖縄島の相違点と共通点を明らかにして学習問題に対する自分の意思を決定し、その根拠を明らかにしながら論述する。

②展開

○イメージマップを活用しながら、二つの事例地の気候の特色や人々の生活の特色、それらの関係性を考え、発表し合う。

○二つの事例地の共通点について話し合う。

○学習問題に対する自分の意思を決定し、発表し合う。

## 【解説】

### 【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領・社会の第5学年の内容（1）では、「我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようする」、「イ 国土の地形や気候の概要、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活」と示されている。また、各学年にわたる内容の取扱いと指導上の配慮事項として「社会的事象を多面的、総合的にとらえ公正に判断することができるようにする」ことが示されている。『小学校学習指導要領解説 社会編』においては、学年の目標に関する記述として「調べたことや社会的事象の意味について考えたことを、根拠や解釈を示しながら図や文章などで表現し説明することができるようにする」ことが示されている。

これらの趣旨を踏まえ、本事例では、言語活動の充実を図るため、イメージマップを作成することで、具体的事実における原因と結果及び目的と手段の関係を説明したり、「もし、引越すとしたら、どちらの地域がよいか？」について根拠を明らかにしながら自分の考えを論述したりという活動を設定するようにした。

A児が作成したイメージマップ

### 【言語活動の充実の工夫】

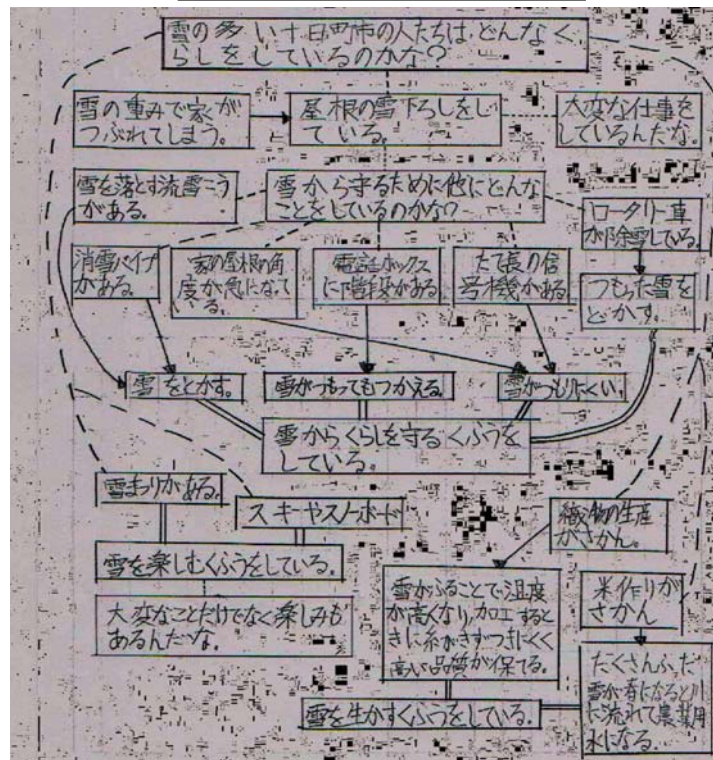
—言葉をつながげながらイメージマップを作成し理解を深めていく—

どちらかの地域を選ぶかという意思決定については、導入時、「雪遊びが楽しい」とか「海に入ることが楽しい」など、一面的・直感的な考えが多く見られた。そこで次の工夫を取り入れた。

○イメージマップを作成して説明し話し合わせるようにした。

それぞれの地域の様子について調べた事実を、「原因と結果」や「目的と手段」の関係で事実を整理し、構造的に理解しながらイメージマップにまとめていく過程で、それぞれの地域のよさや課題だけでなく、課題を克服したり、よさを生かしたりしている人々の工夫や努力にあらためて気付いていった。

また、イメージマップという共通の形式でまとめたことから、グループや全体での話し合いにおいて、互いの意見や考えの比較が容易になり、よりよい学び合いが成立した。特に、「つまり」の線で結んだ関係をとらえることは概念や共通点を考えるために有効なものとなり、多面的・論理的な考えを深めることになった。



- 例えば（例）
  - だから（理由・原因）
  - つまり
  - 自分の考え・疑問
- 
- 中の「～かな?」「～だな。」等